

令和6年度第1回 倉敷市地域福祉基金運営委員会

日 時 令和6年7月31日(水) 13時55分～15時00分

会 場 倉敷市役所西側第2分室 109会議室

出席者

委員 植田委員(会長)、宇野委員、岡本委員(副会長)、小松原委員、諏訪委員、田野委員、
藤澤委員(監事)、薮田委員

事務局

保健福祉局) 佐藤副参事

保健福祉推進課) 笠井課長代理、白神主幹、伊達主任、高橋副主任、倉本主事

欠席者

委員 木村委員、松浦委員

傍聴者 なし

議事内容(要旨)

1 開 会

委員8名の出席により、倉敷市地域福祉基金運営委員会規約第9条第2項の規定に基づき、会議が成立していることを確認し、開会を宣言した。また、規約に基づき会議の進行を植田会長に依頼した。

2 議 事(発言者:◎会長 ○委員 ■事務局)

(1) 令和5年度事業報告、決算報告及び監査報告について

- 事業報告・決算報告について、資料に従い説明を行った。
- 監査について、歳入歳出各科目の収支に関する経理は、基金の目的に沿って適切に処理され、関係帳簿も正確であったことを報告した。
- 今回、大口の寄附金があるが、1千万という大口の寄附金で基金に積み立てられているが、この寄附金の内容や扱いについて教えていただきたい。
- 令和5年度にあった寄附は、匿名の個人1名の方からのもので、寄附いただいた方が、倉敷市の保健や福祉に役立てるために使ってほしいとのご希望があったため、当基金の事業内容を説明させていただいた上で、当基金への寄附として受付した。
- 寄附金に関して、資料にある倉敷市地域福祉基金条例には記載がないが、その扱いなどについて、条例に明記しておいた方がよいのではないか。
- 基金に寄附していただいた寄附金については、予算要求した後、基金に積み立てられるので、基金以外の事業に使われるようなことはない。そのため、特に条例にも明記はしていない。
- 寄附がどのような仕組みで基金に使われるかが分かる説明をどこかに載せても良いのではないか。
- 当基金の成り立ちや、その仕組みについて、今後は当委員会の冒頭等で説明させていただく。
- 助成要綱の第2条で、助成対象者が市内に活動の拠点を置く団体となっているが、運営する会員が市外在住ということは認めているのか。会員について、市内限定等の制限はあるのか。
- 団体を運営する会員様の住所については、市内・市外等の限定していない。ただ、実態としては、市内在住の会員の方が多く、イベントの開催も市内が多いように思われる。
- 地域共助型ボランティア育成事業だが、予算額の市の受託金565,000円はどのように算出し

ているのか。コロナ禍を経て若い方々がボランティアに参加してくださるだけでもありがたいのだが、ボランティアで参加するのに参加費を取っているのが、育成事業としての趣旨からしていかげななものか。

- 市の受託金の金額については、当事業の委託先である倉敷市社会福祉協議会からの予算要求書及び見積書を基に、毎年当基金の第2回運営委員会にて予算額の承認を受けて決定している。したがって、予算額については、委託先から提示された金額となっており、参加費についても委託先で計画されたものとなっている。今回、委員会にてこのような意見があったことを委託先に伝えた上で、参加費についての今後の在り方を検討するよう依頼する。
- ◎ ボランティアの委託事業については、事務局から倉敷市社会福祉協議会に伝達するということがよいか。
- はい。
- ◎ 今年度の予算見積書を見ると、こちらも予算額は565,000円と同額になっている。ただ、毎年予算額を使い切っていないようでもあるし、支出面をみても子供たちの活動を守るために必要な損害保険料の割合が多くを占めていることを考えると、参加費を徴収しなくても良いのではと考えられるが、そもそも徴収することになった経緯なども確認した上で、検討してほしい。その点も伝達いただきたい。
- はい。
- ◎ 2つ目の質問について、助成団体の会員は市内在住と限定しない、ということだが、地域によっては市の境界のあたりで活動されている団体もあるので、そのあたりは実態に即して活動できるような体制がとれたら良いと思う。
- 寄附金について条例に明記すべきとの意見があったが、寄附金に関して規約等を定めたほうが良いということよいか。
- 寄附金の扱いについてその流れが分からず、どこにも記載がなかったので、どこかにその説明があればいいのではないか。
- 規約等での説明が必要かどうかについては、他の基金の規約等も参考にしながら、検討させていただく。

承認

(2) 令和6年度事業計画及び予算(案)について

- 資料に従い説明を行った。
- 委託事業の障がい者・ボランティア国内宿泊研修事業について1,164,000円の予算ということだが、ここ数年物価が高騰していて以前実施した頃より経費が上がっているのではないかとと思われるが、今回の予算はそのあたりを加味しているのか。
- 当予算は今年の1月に開催された令和5年度第2回運営委員会にて承認されたが、予算額については、しらかべ号実行委員会から提出された予算要求書を基に決定している。この金額については、物価高騰の影響を加味しておらず、前回実施した際の予算と同額となっている。その理由として、予算要求時に実行委員会がまだ開催できておらず、行き先等の検討ができていなかったため、見積りの試算が十分にできなかった、と聞いている。
- ◎ 前年も5年前ということで、さまざま状況が変わってきていると思われる。しらかべ号については、宿泊先がなかなか見つからないということで、今でも探しているのか。

- 行先を広島で検討されているそうだが、現時点で広島での宿泊先はまだ決まっていない、とのことだった。
- ◎ 参加者の中には再開を待ち望んでいるとの声も聞いている。実行委員の中には医療従事者も多いということなので、計画策定も苦慮されていることと思う。

承認

(3) 各申請団体の審査

- 資料に従い説明を行った。
- ◎ 今年度は、子どもに関わる事業から高齢者の方の交流の場など、多世代でのさまざまな活動の団体が申請してきている印象だった。コロナが5類になって、さまざまな活動が活発になってきていると感じられる。今後も福祉に関する幅広い事業を応援出来たらいいのではないか。
- ◎ 申請団体の活動内容に関連して、レモネードスタンド活動という活動は全国的にも有名なものなのか。
- レモネードスタンド活動は、小児がん支援のためにレモネードを作って販売する活動のことで、日本でもここ数年活動団体が増えてきている。今回申請いただいた団体は主に倉敷地域でのイベント等に参加して活動を行うと聞いている。
- ◎ 全国的にも広がりを見せているレモネードスタンド活動について倉敷でも新たに団体ができたとのことで今後の活動に期待したいと思う。

承認

- ◎ 事務局の作成した議事録について、間違いがないかどうか承認を行う署名委員は、私のほかに、監事の藤澤委員にお願いをしようと思うがいかがか。

承認

3 閉会

以上により、議事を終了

会議録の内容に相違ないことを確認し、ここに署名する。

倉敷市地域福祉基金運営委員会

会 長 植田 嘉好子

委 員 藤澤 徳久